

牛渡

霞ヶ浦を渡った牛の伝説

市の南部に「牛渡」があります。中世において常陸南部を中心に治めていた小田氏の5代宗知（1259～1306）は、現在の宝昌寺の東側に牛渡寺を創建したと伝えられます。宗知の骨は、牛渡寺に分骨改葬されたとされ、戒名も「牛渡寺殿観慶尊覚大居士」としています。この頃は、「牛渡」という名称が地名としても使用されていたことが史料から判断できます。

では、なぜこの地域を「牛渡」と呼び始めたのでしょうか。時は奈良時代、都から常陸国府（現在の石岡市）へ向う役人が牛に乗って霞ヶ浦の南岸（現在の美浦村安中付近）にたどり着きました。そこから対岸（かすみがうら市牛渡）に渡る際に、その牛を役人は置いていきました。牛は、里人によって大切に



牛渡の地名伝説を残す牛塚古墳（市指定文化財）

現在のデータ
霞ヶ浦地区の旧6カ村の1つで、現在の牛渡地区、地区内で住所大字として使用されている。



文芸ひろば

俳句

新緑や昼の真白な握り飯
新緑の中とつぷりと浸かりけり
野仏の赤い頭巾や桐の花
まつさらな空の広がり蓮浮葉
ひたひたと波迫り来て行々子
人影に素早く逃げし濁り鮎
釣り人を隠れて見て行々子
よしきりの声に明けゆく川の宿

短歌

引き返しちよんとおじぎして行ける道問ひし児を見送りて居つ
老々の介護の果の殺しあり自己犠牲なる最後の愛か
幾すじの木を洩れし光柔らかくひっそりとして森は春待つ
右の掌を口元に翳し吾の耳にささやく仕草の愛し二歳児
今朝は白昨日はむらさき佛前を飾る牡丹は亡夫の好みし
抜きたての大根二本いたゞきてゆさゆさ帰る畑道のどか
病室の窓打つ夜の木の芽雨闇もかすかに夏をにほはす
「考いる葦」風にそよぐ葦も芽を伸しパスカル達三ふつと思う晩春

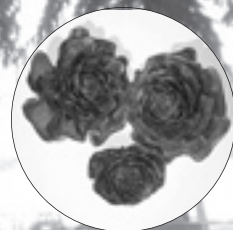
田中好子（下稲吉）
鳥海 力（下稲吉）
中島良平（稲吉東）
中根美子（下土田）
小貫弘子（牛渡）
飯島ヒロエ（三ツ木）
小室和則（西成井）
菅谷 味子（柏崎）

下大津小学校

校門までの坂道の両側には、周囲約3メートルもある大きな9本のヒマラヤ杉が並んでいます。秋になると、バラの花のような実をあちらこちらに落とします。

校庭の片隅には、将来の夢と希望、そして、小学校生活の大切な思い出を詰めた「タイムカプセル」が卒業制作の下に埋められ、成人式を迎えたときに掘り起こされるのを待っています。

今年、創立105周年を迎え、歴史と伝統のある下大津小学校の特色ある教育活動について紹介します。



ヒマラヤ杉の実



育て「あしかび」のように

昨年創刊100号を迎えたPTAの広報誌の題名は「あしかび」です。「あしかび」とは水生植物「アシ」の若い芽のことです。昔、下大津地区に群生していたアシの若い芽のように、子どもたちがぐんぐん成長し発展していくことを願って名付けられたそうです。

今年度、時間割の中に、「あしかびタイム」という学びの場を設けました。自分の夢と希望に向かってねばり強く生きる子どもたちをばぐぐんでいこうと、教職員一丸となって頑張っています。

心と体を鍛えています

業間の時間、元気に外に飛び出してきた子どもたちは、学級毎に号令をかけて準備運動を済ますと、学校林の中に作られた「アスレチックコース」を走って体を鍛えています。コースの中には、子どもたちが大好きなロープウェイがあります。昨年、保護者の方によって修繕されたロープウェイです。

子どもたちは、自然に親しみながら、秘密基地を作ったり、かくれんぼしたりして心と体をばぐぐんでいきます。

テーマは

「守ろう ぼくたちの霞ヶ浦」

本校は、昨年、霞ヶ浦水質浄化推進振興財団より表彰されました。また、茨城県霞ヶ浦環境科学センターで5月5日に実施された「子ども環境フォーラム」において、発表する機会も得ました。EM発酵液を活用したブル清掃、EMぼかしを活用した給食のさんさいの堆肥化、通路のゴミ拾い、地域の方に呼びかけで行っているアルミ缶回収など、子どもたちが主体となって取り組んできた活動が、認められた結果です。

今後も、自分たちの住んでいる地域、そして、地球環境を守るために、自分たちができることを実践していくと考えています。



「子ども環境フォーラム」で発表する4年生の児童